

## 令和8年度 都立深沢高校における教科指導の重点

重点科目	重点課題	取組	発展的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと・話すこと・聞くこと」の指導の充実</li> <li>・学習習慣の定着と語彙力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の教科会において年間指導計画に基づいた指導内容について共有、確認する。</li> <li>・各科目での小テストの実施</li> <li>・週末課題</li> <li>・漢字能力検定試験の校内実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的なグループワーク・発表活動の実施</li> <li>・短歌・俳句コンクールへの参加</li> </ul>
地理歴史・公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本を習得させる</li> <li>・地理＝地図や資料を読みとる力</li> <li>・歴史＝歴史をストーリーとしてとらえる力</li> <li>・公民＝主権者意識を持って臨む力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における急速な変化や新しい社会事象に対し、自らの学習体験の蓄積から汎用的な能力を引き出せるようにする教育を実現するため、生徒が選んだテーマを探究し、グループでの発表を実施。(一部科目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な資料をよみ解き、意見交換の場を設け、言語活動の充実を図る。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識の定着を図る。</li> <li>・式、グラフや表、言葉で表現し、数学的な考え方や捉え方を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末課題や小テスト等の実施を通して反復学習により学力の定着を図る。</li> <li>・生徒の実情に即した習熟度・少人数授業を実施し、きめ細かい指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用した発展的な教材や長期休業中の課題等、生徒の学習到達度に応じて発展的な内容を学習する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の導入・展開・まとめの各場面で、ペアやグループでの話し合い、全体への発表、ワークシートへの記述と共有などの活動を取り入れ、発言や意見交換の機会を意図的に増やすことで、生徒の言語力や発言力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目で出される課題の内容や提出状況を教科内で共有し、未提出者への声かけや指導方法を統一するなど、教員間で連携した組織的な対応を行う。</li> <li>・授業内で 2～4 人程度の少人数グループを編成し、意見交換や問題解決、発表活動などのグループワークを日常的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teams や Forms、プレゼンテーションソフトなどの ICT を活用し、調べた内容をレポートやスライドにまとめる活動を取り入れる。さらに、作成した資料をもとに発表や相互評価を行うことで、プレゼンテーション力や自分の考えを言語化する力の向上を図る。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技等における基礎・基本の充実。</li> <li>・体力向上・各種目の技術向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームティーチング時に、各クラスの状態共有を行いながら、細部まで指導の徹底を行う。</li> <li>・各授業時、導入時にトレーニングや体づくり運動等を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力向上のため、相互授業見学を行う。</li> <li>・わかりやすい授業で、生徒の基礎学力、基礎体力・運動技術の向上を図る。</li> </ul>

		行う。	
外国語	1.習熟度別、少人数授業において基礎基本を身につけさせる。 2. 自ら学ぶ力を育成する。	1.生徒の実情に即した習熟度・少人数授業を行う。 2.週末課題等により家庭学習を定着させる。	JET, ALT 等とのコミュニケーションの充実。 英検等の資格取得を積極的に目指させる。
芸術	・発達生徒の段階を踏まえた指導の充実 ・知識及び技能の定着 ・思考力、判断力、表現力等の育成 ・課題を発見し、解決しようとする力の育成	・育成を目指す資質・能力を明確にし、教科等を学ぶ意義と、教科等間、学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成 ・定期的な課会の開催及び生徒指導の課題の情報共有、解決案の共有	・発表活動の実施 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・対話型鑑賞の実施
家庭	実技等における基礎基本の充実	「家庭基礎」では「ボタンつけ」や「炊飯」など、日常生活に必要となる基礎的な技術は全員習得を目指し、きめ細かく徹底して指導する。 作業のポイントや理由を示し、手と頭の両方を使って理解を深め、技術を身につけさせることを目指す。	選択科目「保育基礎」「フードデザイン」においては、実習を多く取り入れて作業や創作の中で思考を深める機会を設ける。また、専門家との連携を図った授業を展開し、学びの奥深さを体感させる。
情報	・基本的な情報活用能力の習得	・授業における CALL 教室の PC および一人 1 台端末の活用 ・動画や Web コンテンツを用いて、情報倫理やコンピュータの仕組みなどの学習	・文書や表、プレゼンテーション、プログラミングを通じた実践的な情報活用能力の養成